

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
3年前期	3	2	選択
担当教員			
兼子 一			
添付ファイル			
講義概要			
社会現象を科学的に把握する有力な方法として社会調査を取り上げ、社会調査のなかでも中心をなしている質問紙法統計調査の基本的な方法を習得する。これによって世論調査や市場調査に応用するための基礎的な能力を育成する。また、社会に横行しているさまざまな「アンケート」の問題点や、統計データにおいて数値が「一人歩き」する危険性を学ぶ。			
授業計画	1	実証方法としての社会調査 ・総論として、この科目がⅢ類科目群において「心理統計解析」と「マーケティング」とを媒介する科目であることを解説する。 ・さまざまな実証方法、社会調査の活用を取り上げる。 ・AL①④を行う。 ・準備学習：実証方法の種類を列挙する。 ・課題：聴取法事例調査（事例調査）とは何かを調べる。	
	2	質問紙法統計調査のプロセスと概略 ・調査計画の立案と遂行の流れ、フィールド選定、質問紙調査票の設計、サンプリング、面接とその他の技法を取り上げる。 ・AL①④を行う。 ・準備学習：母集団と標本との関係について調べる。 ・課題：内容に応じて質問を質問紙調査票に適切に配置する。	
	3	仮説の構築 ・概念と変数、理論仮説と作業仮説、独立変数と従属変数を取り上げる。 ・AL①④を行う。 ・準備学習：仮説とは何かを調べる。 ・課題：独立変数と従属変数を文章中から発見する。	
	4	変数どうしの関係（1） ・相関関係と因果関係、見せかけの相関を取り上げる。 ・AL①④を行う。 ・準備学習：因果関係とは何かを調べる。 ・課題：因果関係モデルにおける媒介変数の例をタイプ別に挙げる。	
	5	変数どうしの関係（2） ・独立変数または従属変数への位置づけを取り上げる。 ・AL①④を行う。 ・準備学習：変数、定数、係数の区別を明確化しておく。 ・課題：分析モデルにおいて独立変数と従属変数を適切に位置づける。	
	6	変数と尺度 ・量的変数と質的変数、4種類の尺度を取り上げる。 ・AL①④を行う。 ・準備学習：量と質との区別、定量と定性との区別を考える。 ・課題：質問に内在する4種類の尺度を識別する。	
	7	変数と回答形式 ・数量型回答、選択肢型回答、単数回答制、複数回答制を取り上げる。 ・AL①④を行う。 ・準備学習：「アンケート」にみられる回答形式の種類を調べる。 ・課題：質問内容に応じて回答形式を使い分ける。	
	8	尺度とコーディング ・質問・選択肢と変数との対応関係、二値型回答（複数回答制を含む）の処理、欠損値の処理を取り上げる。 ・AL①④を行う。 ・準備学習：「アンケート」における「複数回答可」の問題点を考える。 ・課題：回答形式と変数・尺度との対応関係を具体的に理解する。	
	9	変数と尺度の変換 ・変数・尺度と分析方法との関連、連続した数値の段階的な区切り、回答の得点化を取り上げる。 ・AL①④を行う。 ・準備学習：数量型回答の分布を百分率で示す方法を考える。 ・課題：データから四分位、五分位の階級を作る。	
	10	単純集計 ・NA, DKの扱い、単数回答制と複数回答制との区別、グラフの作成を取り上げる。 ・AL①④を行う。 ・準備学習：単純集計のグラフの形を調べる。 ・課題：集計結果から複数回答制のグラフを作る。	
	11	記述統計 ・基礎統計量の意義、代表値の考え方と算出方法、分散と標準偏差の考え方と算出方法を取り上げる。 ・AL①④を行う。 ・準備学習：数量型回答の分析方法を考える。 ・課題：標準偏差の値を電卓で計算して求め、比較する。	

	12 クロス分析 ・クロス分析の意義、独立変数と従属変数の確認、クロス集計表の作成と考察、グラフの作成を取り上げる。 ・AL①④を行う。 ・準備学習：2 質問（2 変数）間の関係を分析する方法を考える。 ・課題：クロス集計表からグラフを作る。 13 相関分析 ・相関性の意義と限界、散布図、相関係数の考え方と算出方法、相関関係の考察を取り上げる。 ・AL①④を行う。 ・準備学習：散布図の作成が無駄である場合を探す。 ・課題：相関関係から因果関係の可能性を類推する。 14 多変量解析と統計的検定 ・分析のモデル、目的・変数・尺度と解析方法との関連、誤差、統計的検定の考え方を取り上げる。 ・AL①④を行う。 ・準備学習：3 変数間の関係にはどのような種類があるかを考える。 ・課題：目的の相違と変数・尺度の相違に応じて適切な分析方法を選ぶ。 15 まとめ ・質問紙法統計調査の基本、ずさんな「アンケート」の問題点、数値が「一人歩き」する危険性を取り上げる。 ・AL①④を行う。 ・準備学習：「アンケート」結果を誤用または悪用した例を調べる。 ・課題：調査方法と分析方法における誤りを発見する。
授業形態	講義（一部演習を含む） アクティブラーニング：①:15回, ②:0回, ③:0回, ④:15回, ⑤:0回, ⑥:0回
達成目標	①質問紙法統計調査のプロセスを理解すること（基礎） ②エディティング・コーディング、集計、分析、図表作成において注意すべき点を理解すること（標準） ③仮説、変数、尺度などの識別と分析技法の使い分けを身につけること（標準） ④ずさんな「アンケート」の内容やその誤った分析結果を見破ること（応用）
評価方法・フィードバック	課題（40%）および定期試験（60%）で評価する。課題の考え方や正答はiLearnで解説を行う形でフィードバックをする。
評価基準	秀（①～④）：課題および定期試験を総合して90点以上 優（①～③）：同じく80～89点 良（①～②）：同じく70～79点 可（①）：同じく60～69点 不可：同じく60点未満
教科書・参考書	教科書 兼子 一『サブノート社会調査法』Amazon kindle direct publishing
履修条件	「心理統計解析」（2年後期）において「良」以上の成績を修めたことを前提に、授業を行う。
履修上の注意	真剣に受講する学生の利益を優先する。迷惑をかける学生は退室させる。 授業中の撮影、ノートパソコンやスマホの使用を禁止する。
準備学習と課題の内容	準備学習：授業中に指示されたiLearnの予習問題に取り組むこと（1時間）。 課題：①授業中に指示された課題に取り組むこと、②授業で得た知識を「心理統計解析」科目で得た知識と結びつけて整理すること（①②の合計2時間）。
ディプロマポリシーとの関連割合（必須）	知識・理解:50%, 思考・判断:30%, 関心・意欲:5%, 態度:5%, 技能・表現:10%
DP1 知識・理解	
DP2 思考判断	
DP3 関心意欲	
DP4 態度	
DP5 技能・表現	